

2011年9月 支部セミナー講演

## 世界に広がるSGI (Soka Gakkai International)

### 地球家族が奏でる幸せのメッセージ

#### 自己紹介

〇〇支部の総会（セミナー）にお呼びいただきありがとうございます。最初に簡単な自己紹介をさせていただきます。つつじが丘団地に住んでおりまして、創価学会に入会してちょうど50年になります。おりしも本年、古希・70歳という節目を迎えたことから、入信月の先月、自分の信仰体験を「ミニ自分史」としてまとめ、ホームページで公開したところです。

現役時代には大学（早稲田）を卒業すると、国立市にあるNHK学園高校の教諭を務めました。そのときのソ連旅行がきっかけとなって聖教新聞社に入り、やがてラテンアメリカ特派員としてパナマに派遣されました。この特派員だった10年間には、北南米大陸の全ての国とヨーロッパの主な国を訪れる機会に恵まれました。

こんな現役時代のつながりから、定年1年目には横田基地の中にある「セントラルテキサスカレッジ」で英語を、2年目には南スペインのマラガ大学でスペイン語の更なるレベルアップに努めました。まだ20年から30年はあるであろう定年後の人生への投資のつもりでしたが、おかげさまで現在は英語やスペイン語の通訳や講師をしたり、週に2日ほどSGIに行き来日した海外メンバーのアテンドと、海外に出て行く日本人メンバーへの激励やアドバイスをしています。

また年に1回か2回、定年後のライフワークと定めた世界文学紀行の取材で名作の舞台を訪ねています。この6月にはトルストイの「戦争と平和」、ドストエフスキーの「罪と罰」の取材でロシアに行ってきたところです。

そしてその取材旅費を補うためにいくつもの仕事をしています。先ほど述べた語学関係の仕事のほか、昭島市シルバー人材センターの仕事として児童館の管理受付や市報の配布などもしています。また、現在は理事と広報委員長として、会報の編集長も務めているところです。

#### 床屋さんでのやりとり

さて、今日こちらにお邪魔したところ、会場に私と同じような仲間がいることを拝見して親しみを感じているところです。この頭です。

先日、こんなことがありました。

私は年金生活に入ってから、現役時代と違ってできるだけ節約生活を心がけるようにしています。散髪代もその一つです。床屋さんに行くのをやめ、けっこう手先の器用な家内がハサミを操り、私の頭を刈っています。これで、それまで毎月3000円から4000円かかっていたものがただになりました。

現役時代と違い、社内で身なりを整えることに気を使ったり、若い女性に気に入られようとする気遣いが少なくなったからです。本当はそれじゃいけないんでしょうがね。

「年を取るほどにおしゃれを」というのは女性ばかりでなく男性にも適用されるのですが、私の場合、なんてったってその髪自体がないので、頭のおしゃれの仕様がありません。

とはいっても、大事な行事に参加するときや、大切な人と会わなければならないようなときには、やっぱり床屋さんに行くんですね。

でも、この頭です。〈頭を下げて指でさす〉 他のお客さんよりも髪の毛のある部分がぐっと少ない。そこで散髪が終わり料金を払う段になって、店主に言ってみたんですね。

〈落語の話し方で〉

「マスター、ほらご覧のように、私の頭はほかの人の髪の毛の量の半分以下ですよ。禿げている部分はまったく手をかけなくてもよいし……。だから料金も少しは割り引いてくれませんかねえ」

と、その主人、なんて言ったと思いますか？

「旦那さん、そんな無理をおっしゃらないでくださいよ。確かに旦那さんの髪の毛は少ない。ですから、私としては一本たりといえども抜いたり傷めたりしてはいけないと思って、大変な気を遣ってハサミを動かしているわけですよ。逆にこちらが割増料金をいただきましたいくらいですよ」

敵もさるもの、上手をいくもんですねえ。

あの中老年のアイドル、綾小路きみまろさんだったらこう言うでしょう。

「中学時代はイガクリ頭。高校時代は髪もふさふさの美少年でした。

あれから 50 年——。

昔は目の前が明るかった。今、明るいのはこの頭だけ……」

ともあれ、頭が輝いていること即、人生が輝いていることには通じませんが、でも、頭の輝きのように、定年後の人生も輝かせていきたい、というのが今日の私の話の影のテーマであります。

## この半世紀に見た創価学会と S G I

前置きはこのくらいにして今日の表のテーマ、創価学会また S G I（「創価学会インターナショナル」の略称で海外にある創価学会の組織を指しています）についてお話ししたいと思います。

最初に申しあげましたように、私はピタリ半世紀の間、創価学会の中で活動をし実態も見てきました。私が入会した当時は国内の会員数は約 300 万世帯、海外は 30 カ国ほどで数万人のメンバーでした。今、国内の会員数は 800 万世帯を超え、海外は 192 カ国地域に広がりメンバー数は 100 万人を超えています。

アメリカやブラジルなど自由主義経済圏の国で学会員が活躍しているのは今は当たり前のようになっていますが、この 30 年間ほどで目立つのはアフリカ各国の S G I の目覚ましい発展です。初めて聞く方には信じ難いかもしれませんが、今あの広いアフリカ大陸のほとんどの国に仏教徒が誕生しているのです。

例えば昨年ワールドカップの舞台となった南アフリカ共和国では、かつての人種差別を克服し、黒人メンバーも白人メンバーも共に社会と国の繁栄のために頑張っています。東アフリカではケニア、タンザニアなど、中央アフリカではカメルーン、ガボンなど、西アフリカではガーナ、コートジボアールなど、数百、数千、国によっては万の単位でメンバーがおり、しかも社会的にも重要な立場で活躍しています。

つい先日のSGI青年研修会にもアフリカ大陸8カ国から17人の青年が来日しています。彼らはまずアフリカから10時間前後けてヨーロッパに出て、そこからまた10数時間かけて成田に飛んで来ているわけです。もちろん、旅費も滞在費もすべて自費です。すごいことですよ。かつて池田SGI会長が「21世紀はアフリカの世紀だ」と言われましたが、まさに今その時代が始まっているのです。

それと私が感銘を深くしているのは、社会主義の国にも仏教徒が誕生して、それぞれ地域や社会で貢献している事実です。

一つはキューバです。私も特派員として2回訪れていますが、現在、数百人のSGIメンバーが誕生しています。“カリブの赤い星”と言われる典型的な社会主義国で仏教徒が活躍しているのです。

キューバといえば、1996年、池田SGI会長が同国を初訪問しました。このとき、いつもは軍服しか着たことのないカストロ議長（そういえば皆さんも、テレビで見る映像はいつも軍服だったことに気づいておられると思います）が、「平和の指導者を迎えるために」と公の場で初めて背広とネクタイ姿になったことが、日本及び世界のマスコミの話題になったものです。

もう一つはこの6月に訪問したばかりのロシアです。ここにもモスクワや極東の町々に数百人の仏教徒がいます。東西冷戦の終結の最大功労者ゴルビーことゴルバチョフ元ソ連大統領と池田SGI会長との対談集「21世紀の精神の教訓」は、新しい世紀を拓く指針として世界から注目を集めています。

#### **なぜ海外の人たちが入信するのか**

では、なぜ歴史や文化・社会体制の違う国々の人が仏教をたもつにいたったのでしょうか？

いろいろな要因がありますが、一つは「三証」から見ることができます。文証、理証、現証、という三つの証拠。つまり教えを書かれたものがあるか（文証）、教義が道理に合い矛盾していないか（理証）、そしてその宗教を実践した結果、現実に生活が変わっていくか（現証）、といったものです。

文証で言えば、私どもには御書（宗祖・日蓮大聖人の書かれた論文やお弟子への手紙をまとめたもの）があります。欧米ではバイブル、聖書が該当しますね。

理証について言えば、仏法は、因果の法則、生命の永遠、を根本に説かれており、矛盾はありません。ところがキリスト教では、その出発点は「天地創造説」です。つまり

「神がこの世を作った」との教えが原点になっています。したがって、例えば、自分が今、何か問題を抱え、不幸なものも“神がそう望むからやむを得ない”、“神の思し召しだから”と、念仏にも似たあきらめの生き方になってしまうのです。

「地球は動く」といった天文学者のコペルニクスやガリレオを弾圧してきた歴史もあります。天動説、つまり天にいる「神」が中心でなければ困るわけです。

このように科学と相容れない部分がある。生物学や天文学の発達がキリスト教の矛盾を明らかにしてきたのに対し、科学が発達すればするほど、仏法の正しさが証明されていくと私は思っています。

そして現証とは、宗教を实践した結果の証拠です。つまり信仰体験。これは、ここにいらっしゃる学会員のお一人お一人がつかんでいるものです。キリスト教でも「ミラクル」、いわゆる「奇跡」を語っています。私もそのすべては否定しませんが、それがすべての信者に同じような結果が出るものではありません。

次に、なぜ社会主義の国、つまり「物を中心に考え平等に重きを置く、そして基本的には宗教を否定している」国の人々が仏教を信ずるようになったのでしょうか。それは仮にモノの面で平等になったとしても、人間本来の悩み、家庭不和、病気との闘いなど、お釈迦様が説いた生老病死という人間の根本的な悩みは、どんな社会体制に住む人間でも避けられないからなのです。

私たちの唱えている南無妙法蓮華経は、宇宙のリズム・法則であり、私たちの生命のリズム、法則です。わかりやすく言えば、ニュートンが発見した万有引力の法則と同じように、この生命の法則は宇宙に厳然とある法なのです。

約 2500 年前、インド（現在のネパール）に生まれたお釈迦様は、その生涯に膨大な量の教えと経典を残されました。その中で、最後の 8 年に説かれた法華経が最高の教えといわれていますが、実はその法華経の教えの究極が南無妙法蓮華経なんですね。これを、更に現代的解釈で見ますと――

20 世紀最大の歴史学者といわれたイギリスのトインビー博士は、池田 S G I 会長との対談の中で、「人間の幸・不幸は、この宇宙の究極の实在とどう関係するかによって決まる」と言っています。

博士は、仏教徒ではなかったのですが、その究極の实在が何であることを明言するところまではいきませんでした。仏法の本目から見れば、その究極の实在こそ、南無妙法蓮華経を指していると言えるのではないかと思います。

南無妙法蓮華経を唱え、小宇宙である人間の生命が、大宇宙のリズムと合致することによって、物事が順調に進み、願いもかなっていくわけです。信仰をした人が、自身を変革し、体験をつかんでいくのも、この原理にのっとっている、ということもできます。

最初に述べましたように、白い肌の人、黒い肌の人、褐色の肌の人、そして、

英語の人もスペイン語の人も、フランス語の人も、中国語の人も、韓国語の人も、すべて同じ南無妙法蓮華経を唱え、「妙法蓮華経方便品第二 ニジセソン・・・」で始まるお経を読んでいるわけです。

詳しくお話しする時間もないので以下は略しますが、これまで述べたような理由から、海外の人々も仏教を求めて入信してくるのです。

それと、彼らの良いところは、見栄とか体裁、外聞を気にせず、よいものはよいと素直に認め実践することなんですね。日本人の場合だと、よいと分かっても、自分の意志よりも、周囲の目を気にして、なかなか踏み切れない、といった面が往々にしてあります。

ここにも「なるほど、良さそうだ。自分もやってみようか」と思っている方がいらっしやるかと思えます。その一方で、「果たして両親がどう反応するか」「友達がなんて言うか」「拝むなんて恥ずかしい」と、周囲を気にして信心に踏み切れない方がいらっしやるかもしれません。大切なのは、良いものは良いと見る目と、自分の意志を大切にすること、そして勇気だと思います。

その点、「個人主義」と言われる欧米や中南米の人々は、良いと思ったことは、周囲の反応を気にすることなく、自分の意志で実践を始めるのですね。

### 世界で語られている日本人のジョーク

ここで、世界で語られている日本人についてのジョークをご紹介します。海に囲まれた島国・ニッポン。世界の中でも特異な存在である日本と日本人についてこんな小咄が流布しています。

ここで皆さんに質問です。

「ある日、大洋を航海していた船が事故で沈没してしまいました。海に放り出された乗客は、遠くに見える島に向かって泳ぎだしました。その中のたった3人だけ、この小さな島に泳ぎ着くことができたのです。若い男2人と女1人でした。さて、この男2人は女1人をめぐってどんな行動をとったのでしょうか？」

<ちょっと会場に問いかけてみる>

答えは次の通りです。

フランス人：1人は彼女の夫に、もう1人は彼女の愛人になりました。

イギリス人：なんと2人は、彼女を放っておいて、自分たち2人で愛し合い始めたのです。

イタリア人：2人は彼女を自分が手に入れようと、決闘を始めたのです。

では日本人はどうしたのでしょうか？

日本人：2人は、島のどこかに電話がないかとあわてて探しに出かけました。本社に電話して、上司の指示を仰ごうとしたのです。

——この小咄、日本人の行動形態の特徴をよく表わしていると思いますよね。

もう一つ、同じようなよく知られたタイタニックのジョークがあります。たぶん、この会場にも知っていらっしゃる方もいるかと思いますが・・・。

<ジェスチャー大きく>

「いよいよ沈没しかけた船から、男も女も我先にと救命ボートへ避難しようとした。大混乱になろうとしている現場で、婦女子を優先させようとして船長が説得を試みまず」

まずアメリカ人男性に：「キミはヒーローになりたくないか！」（解説）

イギリス人男性に：「あなたは模範的なジェントルマンだ！」（〃）

ドイツ人男性には：「君の国の法律ではそうなっているよ」（〃）

そして日本人男性には：「皆がそうするからあなたもそうした方がいいと思いますよ」

このように、日本人は、まず周りに合わせようとするんですね。周囲の目を気にし、突出することを恐れ、横並びを好み、他人のするように自分もする、という傾向を持っている。日本人は、他人の目を気にしすぎるように思います。それが、いざ何か新しいことを始めよう、また正しいと思われる宗教をやってみよう、という心の足かせになっているような気がします。

#### 横田基地のサンタメロカ支部の活動

ここで、世界が宗教をどう位置づけているか、一例として私が担当している国内の外国人メンバーの状況をお話してみましよう。

それは、横田基地にあるSGIの組織「サンタメロカ支部」のことです。

『サンタメロカ』という名前は、“三多摩のアメリカ”という意味で、メンバーは基地で働くアメリカ人とその家族が中心です。

15年ほど前、その支部長に私が任命されたのです。それから2年ほどして、サンタメロカは、仏教団体・創価学会の支部の一つとして、横田基地の宗教局に正式に登録されました。

この登録によって、サンタメロカ支部はキリスト教やユダヤ教とまったく同等に扱われることになり、次のような特典が与えられたのです。

- ④ チャペル(教会)の施設を、いつでも会合などに使用できること。
- ④ 病院や図書館など公共の施設に、仏教またSGIの書物やパンフレットを置くことができること。
- ④ 基地で発行している新聞や基地内の放送に必要なお知らせを載せられること。
- ④ 遠くでの行事に空軍のバスが無料で提供されること。

まずは教会、チャペルです。基地の第二(福生)ゲートを入れてすぐのところに、広い駐車場を持った明るい感じの教会があります。200人ほどを収容できる本堂のほか、10人から50人余を収容可能な大小五つの部屋があり、どんなイベントに使ってもよいといえます。本堂には、少し高いステージと、本尊を安置できる場所がありますが、ここにはキリストの像も十字架もありません。

20年ほど前から、特定の宗教の本尊を置くのは禁止されることになった。「ユダヤ教でもイスラム教でも、仏教でも必要であれば、その行事のときに本尊を安置して結構です」とのこと。つまり、すべての宗教に公平、中立なのです。

チャペルの牧師は「創価学会は日本で最大の宗教団体なのに、どうしてこれまで申請に来ないのか、と思っていた」といいます。更に、学会が本山と手を切ったことも知っており、「そんなことは全然問題じゃない、キリスト教だって分裂に分裂を重ねてきている。時には、教義のために殺し合ってきた歴史だってあるんだから」とまでいうわけです。

私たちは、チャペルを使って会合をもっています。ご本尊を置いて勤行もします。館内は冷暖房が良く効いており、椅子やテーブルもそろっていてとても使いやすいですね。

基地内での新聞や放送といえば、ある日、私が車でこの昭島市内を走っていたとき英語のラジオ番組F E Nのなかで、サンタメリカのセミナーの行事が放送されているのを実際に耳にしました。

「〇月〇日の午後1時から、〇〇センターで仏教のセミナーがあります。どうぞ自由にどなたでもご参加ください。歓迎します」

この放送はたぶん200キロ圏内くらいまで届いていると思います。

現在は基地の縮小とともにメンバー数も減ってきて、私は支部アドバイザーの立場ですが、支部長だった当時、この軍のバス提供による本部見学会を開催しました。

小児科医で空軍の少佐でもあった地区部長が、車両部隊に行事計画とバス依頼申請書を提出すると、20人乗りのバス3台がOKとなりました。

中央道から首都高速へ。途中の料金所の通過が自分にとってはまた驚きでした。車はどれも左ハンドル。私は先頭車の右側の助手席に座りました。料金所で車両部隊から受け取った10センチ四方ほどのチケットを渡すと、料金所の係りの人はごく当然のように「どうぞ」と。こうして3台、往復計4つの料金所ともパスしたのです。

基地が認めた公式活動。しかもガソリン代、高速道路料金も含めて費用は、いわば「アメリカ政府もち」とも言えます。

この本部見学の際、仏教関係の書籍を多数いただき、横田に持ち帰り、基地の図書館に持参しました。

The Writings of Nichiren Daishonin 英訳された御書

The Lotus Sutra 法華経

Choose life トインビー対談

Women against War 女性の反戦出版

等、それぞれ、日蓮大聖人の仏法、またSGIを紹介した7冊。これらは間もなく図書館に並びました。

宗教そのものを大切に作る民主的なアメリカの風土、機構からくるものです。ともすると宗教をうさん臭いものと見る人の多い日本とはずいぶんの違いですね。

私はSGIでの仕事の際、海外留学アドバイザーとして日本から海外に留学する学生に指導しています。

「ホームステイ先ではそのホスト（家主）に言っていきなさい。「I am a Buddhist」（私は仏教徒です）」と。「SGIメンバーといってもわからないからね。そして『仏教徒は朝晩お祈りをします』と。つまり朝晩の勤行・唱題のことを言っているわけです。

実際に、その方が「信じている宗教はありません」などという留学生よりはるかに信頼が深くなる。「うちにはしっかりとした考えを持ったいい子が来た」と喜んでくれます。特に欧米ではそんな傾向があるからです。

#### いつ、なぜ入信したのか

この会場には初めて創価学会の会合に参加された方もいるかと思えます。そこで、最後に、私がなぜ入信したか、またその後どんな人生を歩んできたかについて少しお話してみたいと思います。

私はこの8月で創価学会に入会してちょうど50年になりました。それは半世紀前の8月、今年と同じように暑い東京の夏のことでした。その2年前、長野県の進学高校を卒業した私は大学受験に失敗。直後に母が脳溢血で倒れ長期入院。そんな家庭事情から進学を断念、上京し大森の小さな自動車部品販売会社で働いていました。

8月のある日、会社の女性社員に創価学会の座談会に誘われたのです。出席してみると仏教哲学の一部が語られていました。話はやがて私を中心に展開していきました。私は率直に抱えている悩みや将来の希望を話しました。

- ◆ 母の病気をなんとか治してあげたいこと
- ◆ 母は長期入院だったけれど、2年たち病状は落ち着いてきていたので自分も再度大学進学を夢を抱いていること

続いて、聞かれるままに実家の宗教や、再受験といっても仕事をしながらの勉強になるのでとても信心などしている余裕はないこと、などを伝えました。

すると、中心と思われる壮年が力を込めて言ったのです。

「お母さんの病気については日蓮大聖人の『四箇の格言』から説明しよう」「時間のないなかでの受験勉強をより効率的にするためにも信心をした方が得ですよ」

そして別のリーダーが、ある学生部員の体験（座っている畳に跡がつくほどの題目を唱

え東大に合格した)を紹介してくれたのです。

当時、私は「赤旗」を購読するなどそれなりに社会について考えていました。周囲の言うことをすぐには納得できなかったのですが、「饅頭がうまいかまずいかは食べてみなければわからない」との勧めで、ともかくも“食べてみる”ことにしたのです。

そのころの私は住み込みで会社のビルの4畳半程の部屋に同僚と2人で寝ていました。時代は東京オリンピック(1964年)を前に、日本の経済は右肩上がり。東京へは地方から大勢の高卒の若者が働きに出てきていたのです。会社の仲間たちもみんな地方からでした。

月給は1万円そこそこ。仏壇を買えるようなゆとりはありません。先輩のアドバイスで枕もとの壁にワイシャツの箱を画鋲で貼り付け、その中に御本尊を安置しました。

勤行を始めると、信心していない会社の仲間が冷やかし半分に覗き見にやってきたものでした。

しかも、当時のマスコミは学会の悪口をさかんに書いていました。「創価学会は貧乏人と病人の集まりだ!」。確かにそうした一面はあったと思います。でも、その批判に対して次の言葉は私にも強い確信を与えてくれました。

「偉そうなことを言っているけど、じゃあ君はそうした貧しかったり病気で苦しんでいる人にどんな救いの手を差しのべてきたんだい!？」

本当にその通りだと思います。一番、悩み苦しんできた庶民に手を差しのべてきたのが創価学会だったのです。

半年後の入学試験では幸いにも早稲田大学商学部合格しました。でも仕事が経理関係で大事な立場にあったため会社を辞めるわけにはいかなかった。そこで仕事をしながらの通学ということになったのですが、大学の勉強が現場の業務にも通じているということで、なんと入学金や4年間の授業料全額を会社が払ってくれたのです。

大学卒業後は、国立にあるNHK学園高校の教諭を務めたり、聖教新聞のラテン・アメリカ特派員として世界を回っていましたが、大変だったときはいつも題目が困難を乗り越え、道を切り開く力になってきました。

一方、この半世紀の間に宗祖の教えに違背した日蓮正宗は在家の信徒団体である我々を破門。その結果、同宗は衰亡の道をたどるなか、創価学会は先ほど述べたように、192カ国地域でメンバーが活躍するまでに世界に広がり平和推進の大きな力になっているのです。

### ライフワークの世界文学紀行

私は創価学会から、そして池田先生から常々、前向きの生き方を教えていただき、定年後の今も大きく開かれた人生を歩んでいることに心から感謝しています。

最初に述べましたように、私は定年後、南スペインのマラガ大学に1年間、留学しました。中南米で使ってきたスペイン語を本場のスペインでもう一度しっかりと学んでおきたい、また「ドン・キホーテ」の舞台を訪ねてみたい、といった理由からでした。

留学生活は予想していた以上に充実して楽しいものでした。そこで私はその記録を「定

年留学してみませんか？——60歳からのアクティブ・ライフのススメ——」といった本にまとめ出版しました。

ところがその半年後、原因がわからないままうつになって、毎日毎日が何をやっても面白くない。判断力、決断力もまったくない。いつ死んでもおかしくないほどの人生最悪のどん底を体験したのです。幸いなことに病院での的確な療法と薬、妻の支えと祈り、関係者の励ましで1年弱でその苦境を乗り越えることができましたが、今思うにその克服の最大の力は、私自身の40年余りの信仰経歴と、それまでに約5000万偏におよぶ唱題の蓄積があったからと、確信します。

しかもそれ以来、以前にも増して元気になり意欲的になったような気がします。いわゆる「変毒為薬」です。そこで始めたことが世界文学紀行でした。6年前に出版400周年となった「ドン・キホーテ」を皮切りに、「名作の舞台を訪ねて」の旅を始めたのです。「ドン・キホーテ」の紀行は郷里の信濃毎日新聞に5回にわたり連載されました。

その後、「風と共に去りぬ」の舞台アトランタとニューオーリンズ、「赤毛のアン」の舞台・カナダのプリンス・エドワード島、それからシェクスピアの作品で「ロミオとジュリエット」や「ベニスの商人」のイタリア、昨年は「ハムレット」の舞台デンマーク、それからゲーテの「ファースト」、ヘッセの「車輪の下」のドイツ。そしてこの6月にはトルストイの「戦争と平和」、ドストエフスキーの「罪と罰」のロシアを訪問したところです。

取材旅行には当然お金がかかります。寄稿した雑誌や新聞からどきどき原稿料が入ることもありますが、とても旅費をカバーできるような額にはなりません。そのために今、シルバー人材センターやSGIを初め、いろんな分野で仕事をして取材旅費を貯えているところです。

そのほか、ボランティア活動の分野でも、NPO法人のTMC(立川多文化共生センター)で在日外国人の支援活動、目の見えない方のためのテープ機関誌の随筆の執筆、また地元の瑞雲中学校で英語の勉強のサポートなどを行っています。

よく、「定年後は **Having** でなく **Being** が大事」だと言われています。財産や貯金を持っていること<**Having**>よりも、今、何をやっているか<**Being**>が問題。財布にいくら入っているかが問題ではない。心にどんな夢を描いているかが問題、だということです。

昔よく、札幌農学校の校長クラーク博士の言葉を聞かされたものでした。

**Boys be ambitious!** 少年よ大志を抱け！

古い言葉ですが、私は今の若い皆さんにも是非この言葉を胸に刻んでいただきたい、と思います。

そして同時に、私はシニアの皆さんにも訴えたいのです。

**Seniors be ambitious!** 熟年よ大志を抱け！

池田先生も「夢が、志が人を作る、大きな夢と志は大きな人生を作る」との激励されており、今月の本部幹部会のメッセージでも「全員が青年の心意気で！」との言葉を投げかけておられます。

ときどき、友人から「清水君はいい人生を歩んでいるね」と声をかけられることもありますが、そんなとき私はいつも答えています。

「創価学会とは価値を創造する団体です。この人生に前向きで創造的な生き方は、すべて創価学会から、池田先生から教えていただいていたものです」と。

そして、そんな私の生き方に共鳴された昭島市の老人クラブの役員の方が、この3月、私が自分のホームページに載せた「古希から描く壮大な夢」とのエッセイを読まれて、「同世代のシニアに勇気を与えるものだ」と昭島市老人連合会の会報の7月号に転載したのです。

連合会には54のクラブがあり、約3700人の会員がいます。私はホームページの原稿の最後の部分に「ちょうど今から20年後は創価学会の創立百周年の佳節にあたります。こうして70代、80代を精いっぱい働き、楽しみ、社会にも貢献できたという実証を残していきたい」と書きましたが、連合会の会報にもそのままの文言が掲載されていました。

世界には経済的なものだけでなく、もっとエキサイティングで大事なことがいっぱいあります。今、世界から問われているのは、経済のみを優先してきた日本なんですね。お金が宗教になってしまっている。国ばかりでなく、社会も個人もそうした時流に流されてきました。お金があるから幸福な生活を送れるとは限らない。正しい思想、宗教を持ち、心が豊かで生きる智慧があつてこそ、生きがいのある人生を送り、社会への貢献もできると思うのです。

つい先日、石原都知事が「今の日本人は我欲、つまり物欲、金銭欲、性欲に支配されてしまっている」と発言しました。右寄りの石原知事の言葉は受け入れられないものもありますが、この言葉に限っては日本の精神界の現状を鋭く突いているものと私も全面的に賛同しているものです。

それともう一つの問題は、日本人は宗教そのものに対する理解が浅いことです。ある海外のマスコミが皮肉っています。「生まれた時は神社にお宮参り、結婚式は教会で、そして葬式になると南無阿弥陀仏の念仏になる」。

宗教は人間が正しく生きていくための基軸です。そしてそれは正しい宗教でなければなりません。その正しい宗教とは、これまでに述べてきた日蓮大聖人の仏法であり、具体的には在家の創価学会の会員として信仰の実践に励んでいくところにあるのです。

大震災と津波、そして原発で行きづまりの日本を根本から立て直すのは、まずは政治でしょう。でも、その政治が今は心もとない。問題の根源は、日本人の精神の貧弱化、貧困化にあると私は思います。大事なことは日本人の精神の復興にあります。

先の東日本大震災では、阪神淡路大震災のときに続いて大勢のボランティアが支援活動に入りました。阪神淡路大震災のときも関西の学会員が支援活動に大変な力を発揮しましたが、今回の東日本大震災でも、東北地方の学会員は自らが被災しながらも、あらゆる救済活動に取り組んできています。

池田先生は大震災と津波の直後に東北の皆さんに心からの激励のメッセージを送られました。

いろんな激励の言葉の最後に「(家や物は崩れても)「心の財」だけは絶対に壊されません!」。「心に強い信心があれば人生で決して負けることはない」と。

物的な支援はもちろん大切ですが、一番力になるのはやはり本人自身の「決して負けない」「必ず立ち上がってみせる」との強い強い心でしょう。そんな先生の激励を胸にメンバーはお互いに支え合い、学会員でない方々の支援や激励にもあたっています。

創価学会は被災地全体では、この昭島文化会館のような会館を 41 会館、避難場所として提供し、5000 人余りの避難者を受け入れてきました。

これからは創価学会が、学会員が被災地のみならず、日本の社会の柱となり、地域の人間関係を潤していく大きな力になっていくと私は思っています。

#### 定年後を輝いて生きるために

現在、私は 70 歳ですが、仕事が二つ、ボランティア活動が三つ、それに創価学会の活動、さらに海外への取材活動と、毎日が多忙で夢とやりがいのある日々を送っています。信心すれば人生が前向きになります。生命力が湧きます。確信が生まれてきます。

最後に私のモットー「ハゲアタマ」をご披露しておきたいと思います。髪の毛が少なくても残念ながら散髪料金は安くならない。そこで私は「定年後を輝いて生きる」ために、率先してこの「はげあたま」的生き方を心がけています。

「はつらつ」と「げんきに」「あかるく」「たのしく」そして「まあるく」です。特にこの最後の「まあるく」が大事ですね。人生、すでに甘いも辛いも経験し、角が取れて「まあるく」なっているはずですから、今さら人間関係でギスギスしてもしようがない。穏やかに「まあるく」いくことです。つまらない顔をしていると、つまらない人生になってしまいます。

題目を唱え、生命に弾むような勢いがあれば、必ず人生も躍動してくる。私はこれからもこの「ハゲアタマ」をモットーに生きたいと思っています。

今、髪の毛のふさふさの方も、どうぞこのモットー実践だけはお勧めです。人生が明るく楽しくなってきます。

世界への仏法の広がり、文化比較から禿げ頭論へ、話しはあっちこちに飛んでしまいましたが、皆さまの何かの参考となればこんな嬉しいことはございません。

以上で私の話を終わらせていただきます。長時間のご清聴ありがとうございました。